

座談会

九品仏地区社協10年を振り返って

—いままでの活動を振り返って印象的なことはありましたか？

- K.S: コロナ禍でずいぶん変わりましたよね。
- Y.Y: 他の地域活動は全て止まっている中、地区社協だよりは毎月出すことができよかったです。広報に関わる推進員の努力があったからこそだと思います。
- S.M: 一度発行を止めたら、モチベーションが下がって立ち上がれないのではないかと感じて、やらなきゃ！と気持ちを奮い立たせていた時期もありました。
- M.N: 広報事業で毎月会議をしていると、コロナ禍に生活でお困りの方の相談が増えたり、世田谷区全体で「食で応援プロジェクト（フードバンク）」が始まったりしていることを知って、目に見えない所で社協が止まらず支援を続けていることが分かって良かったです。
- K.R: 私は、他の地域団体のイベントで、地区社協の「食で応援プロジェクト」のブースを出していました。コロナ禍で改めてふれあい、交流の場が必要だと認識されているようになったと思うので、社協の活動だけじゃなくて、その周りで起きていることも含めて広報でお届けできたらいいなと思っています。災害が起きたら、社協だけが頑張るわけにはいかなくて、みんなで頑張らないといけない。だから、周りの人たちがどんな活動をしているのかを知って、いざという時にもお互いに助け合いたいなと思います。

—地区社協の広報、地域活動に関わっていて良かったと思うことはありますか？

- K.T: 社協協力員として広報編集のお手伝いをして、社協の活動の中身が分かるようになりました。誘われて、社協のおでかけマップの作成にも関わるようになって、一緒に活動する皆さんの熱意を感じました。またその想いや活動内容を地域の方に理解してもらえるかをいつも考えて編集していることも知りました。
- Y.N: 広報をやっていると、社協事業の全体が見えるようになりますよね。今、地域活動に関わる皆さんが何をやっているのか把握できて、その上で何をお知らせしなくてはいけないのかを考えるようになってすごく良かったです。

—地区社協だよりを通して情報を発信する上で大切にしたいことは？

- S.M: 地区社協だよりを発行することで、身近な地域のことが見えるようになって、少しでも興味を持ってもらって、参加



- してもらえたら嬉しいです。
- Y.K: 私は日赤の活動にも関わっていますが、活動を発信することで、団体の活動が自分事に繋がっていったということを知ってもらえるってすごくいいと思います。もしもそういう記事に出会ったら、また次も読みたいと思ってもらえるのではないのでしょうか。
- K.S: 発信したことに対してその後、どうなったのか結果を伝えるということも大切ですね。発信者側だけが分かっているだけでは不十分で、関わっている地域住民も納得しているということが大事だと思います。
- Y.N: 活動の趣旨に賛同いただいたことで、活動に参加する方が増えると、地域の中でのそれぞれの活動が醸し出すものってまた違ってくると思うのです。

—これからどんな情報発信が必要だと思いますか？

- M.N: 屋間に地域にいない人が地域活動にもっと興味を持って欲しいです。皆さん担い手の高齢化というけれど、なぜかといえば若い人が参加できていないから。若い人が参加できない理由の一つは、地域のことを知る機会がないからかなと思います。「こんなことやってたのですね！」って長くてやっている活動に新鮮な反応をもらうこともありますね。若い世代は様々なツールを使ってコミュニティを広げているので、多くの可能性を秘めている気がします。お仕事されている方も駅にある広報紙をずっと持って行かれますよね。電車を待っている時に手に取ってもらえるところにあるので、駅に置けたらいいですね。
- Y.K: 仕事に行く人、地域が違う人でも駅なら取って貰って「こんなことやってるんだ」って知ってもらえるので、すごくいいと思います。

九品仏地区社協だより



発行者：九品仏地区社会福祉協議会
 事務局：社会福祉協議会 九品仏地区事務局
 世田谷区奥沢7-35-4
 九品仏まちづくりセンター内
 ☎070-3946-9797
<https://www.setagayashakyo.or.jp>

祝 200号発行を記念して お祝いの言葉をいただきました！

「九品仏地区社協だより」が200号を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。
 平成19年4月の九品仏地区社協の設立以来、毎月欠かさず発行してこられたご努力に心から敬意を表します。人と人とのふれあいや交流が絶たれたコロナ禍の間も、休みなく発行された「九品仏地区社協だより」は、孤独や不安を感じておられた多くの方々への力強いエールとなりました。また、経済的な困窮に直面しているの方々への食品募集の取り組みなど、時代に応じた生活ニーズを捉えた取り組みは、地域住民の皆様ならではの温かくも柔軟な対応であるとともに、日頃からのネットワークの賜物だと思っています。「地域をもっと良くしたい」という思いを原動力として活動が続けられ、その活動が住民の輪を広げていく……。これこそが、住民主体による地区社協活動の素晴らしさです。



世田谷区社会福祉協議会といたしましては、九品仏地区社協の皆さまとの密な連携の下、皆様の活動への熱意をしっかりと受け止めながら、地域に根差した福祉活動の支援に引き続き取り組んでまいります。

末筆ではございますが、九品仏地区社会福祉協議会の益々のご清栄と、八並会長をはじめ九品仏地区社協関係者の皆様の一層のご健勝をご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

世田谷区社会福祉協議会 事務局次長 金安 博明



「九品仏地区社協だより」200号の発行おめでとうございます。
 九品仏地区社協の設立以来、広報紙を毎月発行してこられた皆様に改めて敬意を表します。

200号発行までにはコロナ禍による活動制限など様々なご苦勞があったことと推察いたします。そのような社会情勢の中でも地区内の様々な事業や地域活動を継続して地区社協だよりで紹介いただいたことは単なる外出機会の提供にとどまらず多くの方々の心の支えになったものと感謝申し上げます。

私自身も数年ではありますが、九品仏地区担当として地区社協だよりの発行に携わられたことを誇らしく思います。玉川地域社会福祉協議会事務局としましても地区社協活動の支援を強化するとともに地域福祉推進員の皆様との連携を図ってまいりますのでご理解とご協力いただけますようお願い申し上げます。

結びに、九品仏地区社会福祉協議会の益々のご発展と関係者の皆様のご健勝を祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

玉川地域社会福祉協議会事務局 所長 河本 信一



九品仏地区社協だより 200号特大版

九品仏地区社協だより200号発行を記念して、会長ほか各事業から活動についての想いを書いていただきました！

★九品仏地区社会福祉協議会 会長 八並 好子

九品仏地区社会福祉協議会は、平成19年(2007年)4月に設立し、広報紙「九品仏地区社協だより」は200号を迎えました。100号を発行後には、令和2年(2020年)1月からの先の見えないコロナ禍がありましたが、社協だよりは毎月20日に休むことなく発行されています。表面は地区のお知らせと報告。裏面はおたのしみカレンダー(サロンの予定表)になっていて、地区の情報を得ることが出来ます。

地区社協は、地区内の町会・自治会・民生委員・日赤等の地域組織や福祉機関、ボランティアグループ等、住民主体で地区にある課題の解決を図っていくための住民組織です。地域の高齢者・子ども・障がいをお持ちの方々が住みなれた地域で安心して暮らせる九品仏地区を目指しています。お互い思いやりをもって、明るく、差別のない社会になればと思い活動しています。

九品仏地区に寄せられた社協会費の50%は、地区社協の活動として使われています。皆様宜しくお願い致します。

★支えあい・助け合い事業A(青少年健全育成事業) 上條 直子

平成26年より好評ではありましたが、参加人数の増えない親子日帰りバス交流会に代えて実施した浄真寺参道での小動物ふれあい交流会は、当初は保育園児や通り掛かりの人達でほのぼのとした会でした。その後参加者の増加で、近隣の迷惑になるのではと心配していたところ、コロナの流行で活動が出来なくなりました。コロナ禍を経て青少年九品仏地区委員会との連携で、盆踊り大会、ウォークラリー、新春子どもまつり、八幡中学校立青式、C組支援等で徐々に活動を始めました。今年度からは民生委員の子育てサロンつぼみと共催で赤ちゃんとお子さんの救命・救急講座を5年ぶりに実施、皆さん熱心に受講されていました。今後も地域のニーズに合う事業を開催していきたいと思えます。



★支えあい・助け合い事業B(福祉施設関係) 矢嶋 禮子

九品仏地区管内の福祉施設との連携を進めてきました。推進員が九品仏生活実習所・奥沢福祉園でのお祭りの手伝いをしたり参加をしたりして一緒に楽しんでいます。コロナ禍で一時活動は休止されましたが、再開されほっとしています。ケアセンターwith(高次脳機能障害者の通所施設)の春の音コンサートは等々力で開催され応援にも出かけていましたが、現在は施設が下馬に転居し、コンサート会場も少し遠くなり、開催のご案内にとどまっています。近年新たに、グループホーム奥沢共愛でのポッチャ交流会が始まりました。また、施設関係者間の情報交換も始まりました。変遷はありますが、地域との橋渡し役となるように福祉施設との連携を図っていきたく考えています。



各事業に携わっている推進員メンバーです！

★学びあい事業 湯澤 則子

学び合いは、2つの柱を持っています。1つは、地域の小・中学校での共生社会の理解のために、福祉学習のお手伝いをしています。白杖や点字に触れたり、高齢者疑似体験のサポートをしています。

2つ目は、推進委員や地域住民を対象にした学習会の開催です。学校授業では、積極的に保護者の参加を呼びかけ、共に学ぶ機会を推進したこと。学習会では、九品仏地区での社協活動の歴史や、社協活動の幅広い活動の知識を深めるための講習会を開催しました。小学生の体験が、成長と共に地域の人材育成に繋がっていくことを期待しています。

★福祉マップ事業 小西 玲子

さかのぼること15年、九品仏地区のマップ作りが始まりました。紆余曲折を経て平成24年(2012年)からは「安心安全マップ」と「お出かけ支援マップ」の2つを作成。裏表に印刷してお届けしてきましたが、今年度から社協事務局の力添えで新しい印刷会社も決まり、「お出かけ・安心マップ」として1つにまとめて、発行する運びになりました。手前味噌ですが、楽しい地図が出来上がったと思います。15年前に比べ、「マップ」に興味を持ってくださる方が増えているのではないかと思います。どんな使い方があるか、掲載したい情報は何かなど、一緒にワイワイガヤガヤ考えてみませんか。

★支えあい・助け合い事業C(地域との連携) 白石 磐

地域との連携事業のうち、地区内の町会・自治会の防災活動への支援は続いています。九品仏地区街づくりの会への支援は、浄真寺参道で行われていた親子花火大会がなくなり、晩秋の「紅葉を楽しむ会」への支援だけになりました。また地区内の「お休み処椅子」は籐風のものに変わりましたが設置個所が少なく、ご自宅前に設置してみたい方は、ぜひ事務局にお問い合わせください。

個人的に社協のサロンのひとつとして体操教室を長年続けてきましたが、その場は健康維持だけでなく社協が目指す「支えあい・助け合い」の交流の場としての役目を果たしています。

地域に在る多くの草の根のような活動に、やりがいを感じています。

★広報事業 丹野 亜紀

100号発行当時、私は「地域？社会福祉協議会？？」…という認識で、我が



家の出来事だけに向き合って生活していました。広報担当として200号発行を迎えた今、小学生の息子達が地域の多くの方々のサポートを受けながら成長していたことや、私自身も助けられていたことを、印刷の透かしを見るような感覚で実感します。

広報は、地域の福祉活動をお知らせする縁の下の存在です。広報紙を通じて、身近な福祉が身近な地域住民で支えられていることを知って、ご自身や身近な人が困った時、地域福祉・九品仏地区社協を思い出していただけると嬉しいです。共に活動する人が増えて、九品仏の地域福祉力が一層力強くなるよう、300号に向けて編集会議は続きます！！

★ふれあい事業 三浦とも子

ふれあう事の難しさを痛感した5年間。コロナ感染対策のため、主だった活動が出来ない中、新しく始めた事業は『食で応援プロジェクト』でした。この時期に生活に変化のあった方々へ向けての小さな手助けとなっていたなら嬉しい事です。この活動はこれからも続けていきたいと思っています。最近では5年ぶりに日帰りバス交流会を実施し、スタッフを含め地域の皆様30名あまりで国立博物館の見学、ソラマチで会食、買い物を楽しみました。少しずつ以前の活動も復活させつつ、地域の皆様とのふれあいを増やしてまいります。